

イントロダクション 報告書

中小企業のアベノミクス

大富豪

太田知里 奥莉奈 福永みく

目次

第1章 アベノミクス

1-1. はじめに

1-2. アベノミクスが中小企業に及ぼした影響

第2章 中小企業への影響

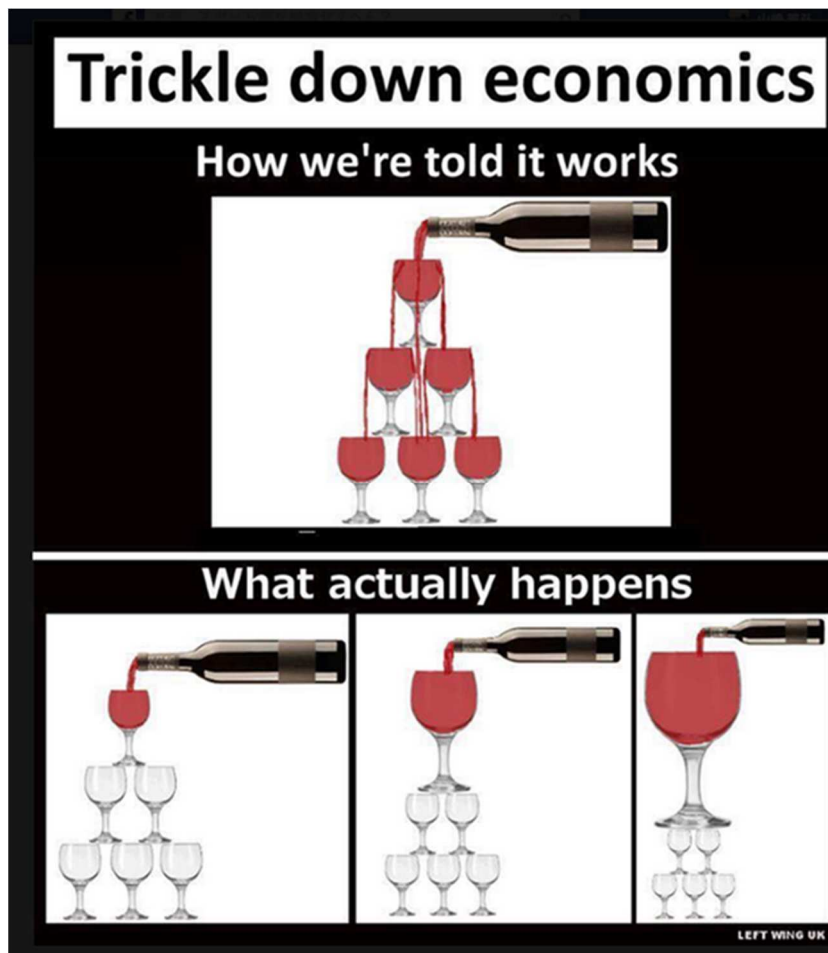
2-1. 内部留保の増加

2-1. まとめ

第1章 アベノミクス

1-1 はじめに

第二次安倍内閣では、①日銀による大胆な金融緩和を契機とした円安や株価上昇、②機動的な財政政策による公共投資の下支え、③14年4月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要などを背景に回復基調で推移してきた。しかし、アベノミクスは大企業への恩恵が強く、中小企業にはそれほど恩恵がないと言われている。



□引用

富裕層が得た富は庶民にも流れる「トリクルダウン理論」の問題点が一目で分かる画像
(<http://buzzap.jp/news/20141110-trickle-down-economics/>)

1-2 アベノミクスが中小企業に及ぼした影響

12年9月に安倍首相が自民党総裁に就任し、金融緩和強化への観測が高まったことから、12年9月の77円58銭から、13年5月には100円台、14年10月には追加金融緩和によ

り 110 円台になり、15 年 7 月末には 124 円 22 銭となり、円安が急ピッチで進行した。

この円安に伴う輸入物価の上昇が、原材料・部品や燃料などのコスト上昇をもたらし、中小企業の収益に悪影響が及んだ。他国にとっては輸出物が売れにくくなり、景気への悪影響が懸念される。

もし、生産過程で中間投入される輸入品・サービスの価格が一律 20%上昇した場合、現状の付加価値額を維持するためには国産品・サービス価格を上げる必要がある。輸入物価の 20%上昇によって価格の引き上げが 5%以上必要な産業は、石炭製品(大・中小企業)、石油製品(大企業)、非鉄金属(大・中小企業)、サービス業である。サービス業に関しては燃料を多く使用する電力・ガス・水道が比較的上昇率が高い。

第 2 章 中小企業への影響

2-1 内部留保の増加

円安は輸入物価上昇による国内景気の悪化につながる。そのため、販路の少ない中小企業は利益獲得のためコスト削減、価格上昇せざるを得ない。売行きも悪くなり悪循環を生んでしまうかもしれない。結果的に、中小企業の活性化を阻害する要因となる。

13 年 10～12 月頃、企業収益の改善を背景に内部留保が増加した。14 年頃、内部留保が 23 兆円、減価償却費が 9 兆円程度、合計 32 兆円の内部調達ができていた。設備投資額 9.9 兆円の 3 倍超の水準である。

内部留保の増加原因は、少子高齢化による将来への不安、銀行からの借入が難しい中小企業がいざという時のために蓄えておくからである。

労働人口減少が消費人口減少へとつながり、将来への不安がある。内部留保の増加は設備投資促進を妨げ、増資より貯蓄が優先されてしまっている。

2-2 まとめ

円安による輸入コストの増加、少子高齢化などによる内部留保の増加、内部留保のため阻害される設備投資などにより中小企業の活性化を阻害している。

生産性を高める増資がなく、コストも増加すれば中小企業が衰退していく可能性は高い。

改善するには中小企業にとって大きな顧客となり得る海外とのつながりを強化することにある。例として、海外進出を支援し、中小企業の販路を拡大することで市場縮小の影響を抑制することなどが考えられる。

参考文献

□ 中小企業の景況と財務状況の現状と課題～アベノミクスが中小企業に及ぼした影響～
信金中央金庫 地域・中小企業研

(<http://www.scbri.jp/PDFnaigaikeizai/scb79h27y03.pdf#search=%27%E4%B8%AD%E5%B0%8F%E4%BC%81%E6%A5%AD%E3%81%AE%E6%99%AF%E6%B3%81%E3%81%A8%E8%B2%A1%E5%8B%99%E7%8A%B6%E6%B3%81%27>)

□ 富裕層が得た富は庶民にも流れる「トリクルダウン理論」の問題点が一目で分かる画像
(<http://buzzap.jp/news/20141110-trickle-down-economics/>)